

2024（令和6）年度 高大連携フォーラム 開催報告

「高大連携によるキャリア教育・再考」をテーマに以下のとおり開催した。

日 時：2024（令和6）年10月8日（火）15：30～17：00

会 場：大阪教育大学 天王寺キャンパス みらい教育共創館（オンライン併用）

申込者数：80名

参加者数：69名

<参加状況>

	申込（名）	参加（名）	参加率
来場	36	38	105.6%
オンライン	44	31	70.5%
合計	80	69	86.3%

<参加者内訳>

	来場	オンライン	合計
会員大学	15 大学 23 名	10 大学 14 名	21 大学 37 名
会員大学外	1 大学 1 名	7 大学 7 名	8 大学 8 名
高等学校	10 校 13 名	2 校 2 名	12 校 15 名
自治体関係者	0 名	1 名	1 名
民間企業	1 名	5 名	6 名
その他	0 名	2 名	2 名
合計	38 名	31 名	69 名

プログラム：

15:30	開会挨拶 秋田 成司氏（大阪公立大学 副学長 / 高大連携部会推進委員会 委員長）
15:35	講演 若江 真紀氏（株式会社キャリアリンク 代表取締役）
16:35	意見交換
16:55	閉会挨拶

<司会進行> 峯 明秀氏（大阪教育大学 理事・副学長 / 高大連携部会推進委員会 推進委員）

演 題：Society5.0時代のキャリア形成について考える

概 要：産業界が変革し、求める人材も変化している一方で、教育界ではその実態を十分に把握できておらず、産業界のニーズに追いついていない。教育界のパラダイムシフトを実現するためには、キャリア教育の基盤となる学際的な資質・能力を系統的かつ横断的に育成し、社会と連携したWBL（Work-Based Learning）型教育を通じて、自分らしい社会との関わりを創出する学びにつなげることが重要だ。

アンケート：別紙のとおり

以上



フォーラムの様子

2024（令和6）年度 高大連携フォーラム 参加者アンケート結果

参加者69名 回答件数54件 回答率78.3%

<p>1. 回答者について</p> <table border="1"> <caption>回答者の所属先</caption> <thead> <tr> <th>所属先</th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学職員</td> <td>23</td> <td>42.6%</td> </tr> <tr> <td>高等学校教員</td> <td>13</td> <td>24.1%</td> </tr> <tr> <td>大学教員</td> <td>9</td> <td>16.7%</td> </tr> <tr> <td>民間企業関係者（教育関連）</td> <td>5</td> <td>9.3%</td> </tr> <tr> <td>支援学校教職員</td> <td>2</td> <td>3.7%</td> </tr> <tr> <td>学生</td> <td>2</td> <td>3.7%</td> </tr> </tbody> </table>	所属先	人数	割合	大学職員	23	42.6%	高等学校教員	13	24.1%	大学教員	9	16.7%	民間企業関係者（教育関連）	5	9.3%	支援学校教職員	2	3.7%	学生	2	3.7%	<p>2. 本フォーラムを知ったきっかけ（複数回答可）</p> <table border="1"> <caption>本フォーラムを知ったきっかけ</caption> <thead> <tr> <th>きっかけ</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>所属先からの案内</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>大学コンソーシアム大阪からの案内</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>大学コンソーシアム大阪HP（SNS含む）</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>テラシ</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>Tulipメーリングリスト</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>	きっかけ	人数	所属先からの案内	19	大学コンソーシアム大阪からの案内	18	大学コンソーシアム大阪HP（SNS含む）	8	テラシ	7	Tulipメーリングリスト	6
所属先	人数	割合																																
大学職員	23	42.6%																																
高等学校教員	13	24.1%																																
大学教員	9	16.7%																																
民間企業関係者（教育関連）	5	9.3%																																
支援学校教職員	2	3.7%																																
学生	2	3.7%																																
きっかけ	人数																																	
所属先からの案内	19																																	
大学コンソーシアム大阪からの案内	18																																	
大学コンソーシアム大阪HP（SNS含む）	8																																	
テラシ	7																																	
Tulipメーリングリスト	6																																	
<p>3. 本フォーラムに参加しようと思った理由（複数回答可）</p> <table border="1"> <caption>参加しようと思った理由</caption> <thead> <tr> <th>理由</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>テーマに関心があったから</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>登壇者または講演内容に関心があったから</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>最新情報を知りたかったら</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>上司からの指示または業務上の必要性があったから</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	理由	人数	テーマに関心があったから	48	登壇者または講演内容に関心があったから	15	最新情報を知りたかったら	13	上司からの指示または業務上の必要性があったから	4	<p>4. 講演について</p> <table border="1"> <caption>講演の参考性</caption> <thead> <tr> <th>参考性</th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても参考になった</td> <td>38</td> <td>70.4%</td> </tr> <tr> <td>参考になった</td> <td>13</td> <td>24.1%</td> </tr> <tr> <td>あまり参考にならなかった</td> <td>3</td> <td>5.6%</td> </tr> </tbody> </table>	参考性	人数	割合	とても参考になった	38	70.4%	参考になった	13	24.1%	あまり参考にならなかった	3	5.6%											
理由	人数																																	
テーマに関心があったから	48																																	
登壇者または講演内容に関心があったから	15																																	
最新情報を知りたかったら	13																																	
上司からの指示または業務上の必要性があったから	4																																	
参考性	人数	割合																																
とても参考になった	38	70.4%																																
参考になった	13	24.1%																																
あまり参考にならなかった	3	5.6%																																
<p>5. 本フォーラム全体について</p>																																		
<p><全体></p> <table border="1"> <caption>本フォーラム全体の参考性</caption> <thead> <tr> <th>参考性</th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても参考になった</td> <td>35</td> <td>64.8%</td> </tr> <tr> <td>参考になった</td> <td>17</td> <td>31.5%</td> </tr> <tr> <td>あまり参考にならなかった</td> <td>2</td> <td>3.7%</td> </tr> </tbody> </table>	参考性	人数	割合	とても参考になった	35	64.8%	参考になった	17	31.5%	あまり参考にならなかった	2	3.7%	<p><参加形態別></p> <table border="1"> <caption>参加形態別の参考性</caption> <thead> <tr> <th>参加形態</th> <th>とても参考になった</th> <th>参考になった</th> <th>あまり参考にならなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来場 29件</td> <td>24 (44.4%)</td> <td>5 (9.3%)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>オンライン 25件</td> <td>11 (20.4%)</td> <td>12 (22.2%)</td> <td>2 (3.7%)</td> </tr> </tbody> </table>	参加形態	とても参考になった	参考になった	あまり参考にならなかった	来場 29件	24 (44.4%)	5 (9.3%)	0	オンライン 25件	11 (20.4%)	12 (22.2%)	2 (3.7%)									
参考性	人数	割合																																
とても参考になった	35	64.8%																																
参考になった	17	31.5%																																
あまり参考にならなかった	2	3.7%																																
参加形態	とても参考になった	参考になった	あまり参考にならなかった																															
来場 29件	24 (44.4%)	5 (9.3%)	0																															
オンライン 25件	11 (20.4%)	12 (22.2%)	2 (3.7%)																															
<p>6. 本フォーラムの満足度について</p>																																		
<p><全体></p> <table border="1"> <caption>本フォーラムの満足度</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>31</td> <td>57.4%</td> </tr> <tr> <td>概ね満足</td> <td>20</td> <td>37.0%</td> </tr> <tr> <td>満足できない点があった</td> <td>1</td> <td>1.9%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>2</td> <td>3.7%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	人数	割合	満足	31	57.4%	概ね満足	20	37.0%	満足できない点があった	1	1.9%	不満	2	3.7%	<p><参加形態別></p> <table border="1"> <caption>参加形態別の満足度</caption> <thead> <tr> <th>参加形態</th> <th>満足</th> <th>概ね満足</th> <th>満足できない点があった</th> <th>不満</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来場 29件</td> <td>22 (40.7%)</td> <td>6 (11.1%)</td> <td>1 (1.9%)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>オンライン 25件</td> <td>9 (16.7%)</td> <td>14 (25.9%)</td> <td>0</td> <td>2 (3.7%)</td> </tr> </tbody> </table>	参加形態	満足	概ね満足	満足できない点があった	不満	来場 29件	22 (40.7%)	6 (11.1%)	1 (1.9%)	0	オンライン 25件	9 (16.7%)	14 (25.9%)	0	2 (3.7%)			
満足度	人数	割合																																
満足	31	57.4%																																
概ね満足	20	37.0%																																
満足できない点があった	1	1.9%																																
不満	2	3.7%																																
参加形態	満足	概ね満足	満足できない点があった	不満																														
来場 29件	22 (40.7%)	6 (11.1%)	1 (1.9%)	0																														
オンライン 25件	9 (16.7%)	14 (25.9%)	0	2 (3.7%)																														

7. 6.にて回答した理由

<満足>

- ・自身の担当業務について非常に有益な情報を得ることができた。
- ・聞きたい内容で良かったです。
- ・分かりやすくお話いただいた。
- ・新しい知見を得られた。(他3件)
- ・具体的で分かりやすかった。教育観の転換の観点が理解できた。
- ・本校のめざしているキャリア教育の方向性に不安があったが、先生の話聞いてとても良かった。学校に帰って共有したいと思います。
- ・産学連携の最新の情報が知れた。
- ・短い時間ながらも的確にキャリア教育の現状と課題を示し、これからどのように向かっていくべきかを述べており分かりやすく、かつ納得感のある講演で非常に参考になった。
- ・社会と関わる機会が薄いこと、企業が教育界以上に課題意識があることが分かった。自分自身の意識の大きな転換が必要であることを認識できた。
- ・会った方からの感想が聞けたこと。繋がれたら、さらにありがたい。
- ・今日の学校教育の抱える課題と将来展望を示していただけました。
- ・トークセッションでは普段交流のない高校の先生とお話できてとても良かった。また、質疑応答の時間で若江様のはっきりとした回答を得ることができてスッキリしました。
- ・多視点的な情報が得られたこと、ステークホルダーと名刺交換できたこと。
- ・対面で参加できて良かったです。名刺交換での挨拶ができて対面の良さを感じました。大阪教育大学のアクティブラーニング使用のスタンディングに変形する机も体験でき参考になりました。
- ・熱意のこもったご講演で大変感銘を受けました。また、会場へのアクセスも良く、最後のトークセッションでのアクティブラーニング形式の議論など、周りの参加者との関係構築にも役に立ち取り組みだったと思います。
- ・講演を聴き、高大連携の在り方やインターンシップについて再考する機会になった。
- ・教育現場とは異なる立場からのお話をお聞きする事ができた。
- ・これから求められる教育観の転換について、ポイントが分かりやすく、大変勉強になった。
- ・トークセッションの中で、現場の先生方から具体的な質疑応答があり、リアルな課題とニーズが浮かびあがったと思います。

<概ね満足>

- ・分かりやすかった。
- ・ニーズに合っていた。
- ・突然のブレイクアウトセッションに戸惑いましたが、ご講演は大変参考になりました。
- ・だいたい把握していた。
- ・期待通りの内容でした。
- ・キャリア教育という視点に興味を持ちました。
- ・ブレイクアウトルームへ急遽とばされたのは、びっくりしてしまいました。移動中の方で、耳だけ参加など、オンライン参加は様々な状況が考えられるため、やはり、事前のアナウンスや、さらに満足度を高めるのであれば、各ブレイクアウトルームへ移動できるようにする※振り分け先メンバーが議論NGの場合、議論しているグループに移動し、参加できるなど)があると良かった。今後、オンライン参加でも議論をするのであれば、参加状況により【視聴のみ】など表示名に入れて、ブレイクアウトルームに入れないなどの工夫があるとよいと思った。
- ・時宜を得たテーマで、キャリア教育のあり様を考える良い機会となった。
- ・旅行会社の中ではまだなかなか高大連携が進めれておりませんが、何かお手伝いできることはないか模索しており、今回の内容が考え方を含めて参考になりました。
- ・広い視野での講演で大変参考になったのですが、テーマにある「高大連携による」というところの最新事情や大阪での状況を知りたかった。
- ・高大接続について大学で情報共有するための参考となった。
- ・高校現場での取り組みについて参考となった。

<満足できない点があった>

- ・学校側と産業界の連携が重要であると考えています。だからこそ日本の産業界でこのような形で連携できる/しているという具体的な事例などが知りたかったです。(アメリカのIntelのようなことをやってくれる日本の企業は実際存在しているのでしょうか?)

<不満>

- ・「高大連携」とありましたが、講演者の方から、高大連携のキャリア教育の事例などを聞けるものと期待していたのですが残念でした。
- ・特に得られるものはありませんでした。

8. 講演に関する意見や感想

- ・とても勉強になりました。現場の課題に活かしたいと思います。
- ・若江様の話の内容に大変感動いたしました。個人的にもぼんやりと思っていた考えが整理されたような気がして、大変有意義な時間でした。
- ・本学においても、同様の学びを展開しているの、改めて必要性を感じることができました。
- ・最前線の感動するくらいの情報をありがとうございます。いろいろな現場で話題にしたいですね。鹿児島では、こんな総合にしてみたいという教員をコツコツ増やしていきたいと思っています。ちなみに、鹿児島大学附属小は3年生以上が個人探究に取り組んでいるようです。
- ・学会にも所属しているので、確認ができて良かったです。
- ・今後、AIはますます身近なものになっていきます。便利なものに頼るのではなく、主体的に活用することのできる人材の必要性を認識しました。これからの教育では、AIとの付き合い方を本気で考える必要があると思います。
- ・「高大連携を超えて、社会との連携も」とのお話しをお聞きしました。一方で新たな時代と学校教育に乖離もあるように感じます。このギャップをいかに埋めるかが今後の課題だと思います
- ・確かに社会に開かれた、または関わりを持つ学校であれば良いと思いますが、それらは社会に出ればできることではないでしょうか。しかし、ある一定の層[十分学び社会に影響を与えたいと考える]には刺激的で良いかもしれません。角川のように企業が学校を作る、これがモデルになると思います。
- ・学校現場での総合的な探究の時間では中学校に課題があり、またその解決には校長の学校運営が鍵である旨のお話が印象に残りました。学校単位での視点も重要と感じましたが、日本の教育システム全体からの視点でのお話も伺えると良かったと感じました。
- ・一人で悶々と考えていた事柄が、論理的な若江様の言葉として聞くことができ、頭が整理されたようでした。事前のアンケートで記載させていただいた質問を思い返すと、問題はそんなところではないんだと、もっと俯瞰して考えるべきであったと考えを改めることができました。
- ・活力をいただきました！何ができるかではなく、何をしたいかが世界を変えるのだと思いました。
- ・小中高大、社会への連携接続の大切さをクリアに説明してくださり、世界における日本の現状を理解し、課題を確認することができました。高等学校のキャリア教育は、大学入学がゴールではないという言葉にハッとしました。生徒の個性に沿ったキャリア教育ができるようにしていきたいと思っています。学校と社会の関わりが大切だという話は理解できたのですが、高校と大学との連携はどのようにしていけば良いかの話があれば嬉しかったです。
- ・熱意のこもったご講演でキャリア教育の在り方や今後取り組む姿勢など大変参考になりました。
- ・大変分かりやすく、パラダイムシフトを軸にキャリアデザインをとらえることができた。
- ・求められる教育がどういふものなのか、その教育を実現するための先生方の養成や研修「学び続けること」の重要性を改めて認識しました。
- ・広い視野でのご講演で大変参考になりました。
- ・内容について可視化して自分自身が整理することができ、とても参考になりました。
- ・すでに知っている内容ばかりでした。
- ・内容は概ね中教審答申の解説に終始、既知の課題を提示されるばかりで何らか解決の糸口を検討している身に響くものはありませんでした。

9. フォーラム全体に関する意見や感想

- ・とても参考になりました。他7件
- ・会場で質問されている先生を見ていて先進的な取り組みをしている学校と比べたら遅れている印象を受けた。
- ・ハイブリットでの開催については次回以降についてもご検討いただけるとありがたいです。
- ・ご講演とトークセッション、その後に質疑応答という流れが、考えを深めて→視野を広くして→そこで生まれた疑問に対して一つの解答を聞く、という自然な思考の流れに沿って非常に満足感のある時間になりました。
- ・講演の後に、対面参加者だけでしたが、参加者との交流の場があったのは良かったです。
- ・トークセッションでのアクティブラーニング形式の議論は対面ならではの取り組みだったと思います。今後もこのような取り組みがあっても良いように感じました。
- ・高大連携の重要性はますます高まっているので、貴重な学びの場をつくっていただけてありがたいです。
- ・オンラインにも参加の機会があり、ありがたかったです。あと10分ほしかったです。
- ・私は高校の教員経験がある者ですが、高校の教員はこのような内容を欲しているのではないと思います。実際に、具体的に、どのような連携ができるのか、やっているのか、期待されているのかを知りたいはず。もっと言うならば、高校の探究の時間に大学のリソースを入れたいと考えているはず。
- ・参加者とのオンライン交流がこれからというところで、時間が足りなくなってしまう、中途半場に終わったところが残念でした。
- ・講演内容、進行（講演後の予告なしブレイクアウトルーム招待）とも稚拙と感じました。
- ・質疑応答が多数出ている様子が画面上でうかがえましたので、次回はこちらのお時間も少し多めに確保すれば、課題解決の糸口となりえる気がいたします。また、オンライン参加の場合はセッションでは積極的に参加できるようお声がけいただけますと幸いです。（今回、皆様は遠慮なさって、どなたもカメラ・マイクがオンならなかったことが残念です。）

10. 次回のフォーラムで取り上げてほしいテーマ

- ・高大連携の事例について
- ・中学高校学校現場で最先端教育をシステム化するためにはどうすれば良いか。
- ・大学ではすでに行っていますが、中学校や高校でどのようにしてリベラルアーツを高めていくか？充分させるか？など。
- ・大学全入時代における入学前教育と初年次教育について。
- ・実践例を実践者から聞きたいです。
- ・生成AIを使う人材をどのように育成するか
- ・高校までの探究による学びを大学入試で評価する方法
- ・高校と大学の連携授業について
- ・PBLやWBLなど体験中心の探究（大学における研究との橋渡しなど）
- ・生成AI
- ・大学と高校のキャリア教育担当者でトーク。「大学が高校とどのように連携をしたいと思っているのか。」「高校が大学とどのように連携をしたいと思っているのか。」
- ・高校教育の現場からの実践報告を続けていただきたい。